

表1 必要な機能と施設・設備のモデル(想定)

必要な機能	
1	<p>① 鳥取県に関するものを中心に、地学、生物、歴史、民俗文化など自然と先人の歩みに関する貴重な資料を、国内法規や国際協定等を遵守しつつ、体系的・計画的・継続的に収集する機能。</p> <p>② 収集した資料に関する情報を適切に記録・管理し、内外における調査研究等に随時活用・提供できる機能。</p> <p>③ 収集した資料を次世代に継承するために温湿度や照明が最適に保たれ、災害等に対しても安全な環境の下で適切に保存・管理し、観覧や閲覧、利活用が容易に行える機能。</p>
2	<p>① 鳥取県の豊かな自然と変化に富んだ先人の歩みについて、常時、専門分野ごとに詳しく伝えるとともに、まとまりのある地域ごとに過去からの流れを物語的に紹介する機能。</p> <p>② 自然と人間の歩みについて、随時、国内外の貴重な資料を用いて世界や日本の多様な状況を伝えるとともに、鳥取県に関する最新の研究成果等を紹介する機能。</p> <p>③ 自然や歴史・民俗の研究者や愛好家等も博物館の展示に参画・協働することができる機能。</p> <p>④ 年齢や言語、障がい等にかかわらず来場者に親しんでもらえるような展示が行える機能。</p>
3	<p>① 収集した資料についての調査研究や、博物館の運営・活動に関する調査研究を集中的に行える機能と、調査研究に必要な資料や図書を迅速に参照等できる機能。</p> <p>② 県博の収集資料を内外の研究者等が容易に調査・利活用できる機能。</p> <p>③ 調査研究の成果を反映した展示を行い、あるいはその成果を取りまとめた紀要を発行して、成果を県民等に還元する機能。</p> <p>④ 県下各地に残る豊かな自然や歴史遺産、民俗行事等を、大学や民間の研究者など館外主体の参画・協力を得て調査研究する機能。</p>
4	<p>① 学習ニーズや学習内容に応じて最も適切な手法、設備等を駆使し、自然や人間の歩みを効果的に学習・体験する機会を、県民に等しく提供できる機能。</p> <p>② 学校教育における地域学習を、館内外で効果的に支援できる機能。</p> <p>③ 年齢や言語、障がい等にかかわらず、様々な人々が参加できる学習・体験プログラムを提供する機能。</p> <p>④ 学芸員等を学校や公民館等に派遣し、各地域の児童・生徒や一般住民を対象として、上記のようなプログラムを実施する機能。</p> <p>⑤ 博物館から離れた地域に対しては、上記のほか資料貸出しや出張展示等により博物館資料に触れる機会を提供する機能。</p>
5	<p>① 自然や先人の歩みを自発的に学ぶ県民に対して、学芸員等が専門的な指導・助言を行う機能と、必要に応じて博物館の資料や図書の検索、閲覧等のサービスを提供することができる機能。</p> <p>② 自然や人間の歩みに関し、他の博物館や資料館、大学等の研究機関、民間の研究者や愛好家などと協力・連携して、イベントの開催その他様々な連携事業を推進する機能。</p>

事業計画	
(1)	<p>【鳥取県の自然や歴史・民俗に関する資料の収集】</p> <p>鳥取県に関する地学、生物、歴史、民俗などの資料を体系的に収集し、県民の共有財産として継続的に充実させていく。</p> <p>【収集資料の保管と活用】</p> <p>収集した資料を適切、安全な環境の下で保存・管理し、国内外の研究者等の利活用を促進するとともに、一部の収蔵庫にはガラス窓を設置し、資料の保管の様子を来場者がいつでも観覧できるようにする。 ※収蔵庫の常時観覧は、庫内の資料に悪影響が出ない方法で行う。</p>
(2)	<p>【常設展示】……「資料」が語る展示</p> <p>【鳥取県を知るための融合展示】</p> <p>「自然・歴史・民俗「資料」」にまつわる様々な話を資料自身が伝える展示室を新設し、本県の自然的・歴史的な個性を総合的に把握・理解してもらえるようにする。</p> <p>・県民とともに作り上げることを心がけ、展示室内から議論が生まれる「学びの空間」となり、ここから鳥取県の新しい価値観が創り出されるようにする。</p> <p>【鳥取県に関する分科別展示】</p> <p>鳥取県の地学、生物、歴史、民俗の各分野について、学芸員の調査研究やその他の最新の研究成果などを踏まえた専門的な知見をわかりやすく展示する。</p> <p>・期間ごとに展示替えるコーナーを設け、新収蔵コレクションや最新の話題を速報展示し、学芸員以外の研究者や愛好家等も参画・協働できるようにする。</p> <p>【企画展示】……各展覧会の2ヶ月程度にわたる長期開催(県民の観覧機会の確保) ※学芸員を増員し、展覧会の回数を増やすことも検討する。</p> <p>【国内外の貴重な資料を閲覧できる展覧会(年1回程度)】</p> <p>・自然と人間の歩みについて世界や日本の多様な状況を学ぶことのできる機会を県民に提供する。</p> <p>【鳥取県の自然や歴史・民俗に関する展覧会(年1回程度)】</p> <p>鳥取県に関する最新の知見や新たな発見を紹介し、本県のアイデンティティ強化に資する。</p>
(3)	<p>……「収集資料」に基づく開かれた調査研究活動</p> <p>【収集資料の整理と研究】</p> <p>・収集した資料を活用できるよう、整理と登録を優先的に行っていく。</p> <p>・整理された資料を、県外の機関とも連携しながら、精力的に調査研究し、鳥取県の「過去」と「現在」を明らかにしていく。</p> <p>【目録・データベースの提供と「研究報告」の発行】</p> <p>・登録資料を目録・データベースで提供、調査研究結果を「研究報告」として発行し、成果の県民等への還元とともに、国内外の研究者等の参画・協力を得やすくする。</p>
(4)	<p>……100人以上が収容できる多目的大スペース(講演、講座、昼食会場など)を核に</p> <p>【講座・講演会・観察会・ワークショップ等の充実】</p> <p>様々な使用形態に対応可能な多目的大スペースを新たに整備して、学校など大人数の団体や幅広い来場者を対象に、多様な学習・体験プログラムを提供。</p> <p>(1) 年齢や言語、障がい等にかかわらず、様々な人々が参加できる学習・体験プログラムを提供する。</p> <p>・学芸員の仕事(資料の整理や調査、展示の準備など)を紹介するプログラム等も実施し、博物館活動への理解や関心を深め、積極的な参画を促す契機とする。</p> <p>【アウトリーチ活動】</p> <p>博物館から離れた地域を重点に、公民館や学校等への学芸員派遣、テーマを定めた貸出し資料キットの作成、出張展示等を行い、全ての県民に学習の機会を提供。</p> <p>(2) その際には、県内の他の博物館(類似施設)と連携しつつ、役割を分担し、各地域における学習機会の格差是正と学習内容の個性化を図る。</p> <p>【学校教育活動の支援】</p> <p>・学校教育における博物館利用を促進するため、社会見学等でクラスを挙げて来館した際には、多目的大スペースを活用し、来館者サービスの充実、活動内容を拡充。</p> <p>(3) 小学校と連携し、発達段階に即した博物館利用法を考えていき、県内のすべての小学生が有効に利用できるようにする。</p>
(5)	<p>……県民の生涯学習の場</p> <p>【ボランティアや任意団体等による博物館活動の活性化】</p> <p>資料の整理や登録、自然標本の同定、古文書の解読などをボランティア等に支えてもらって着実に推進する。同時に、ボランティアたる県民に生涯学習の機会を提供し、博物館事業と県民活動との融合を図る。</p> <p>【研究機関等との連携事業の推進】</p> <p>大学等の研究機関や民間の研究者や愛好家などと協力・連携して、多種多様なシンポジウム、研究発表会等を開催し、多岐にわたる研究活動を展開する。</p> <p>【県民の活動成果の発表機会の提供】</p> <p>企画展示室を県民の様々な活動成果等を展示・発表する場として積極的に提供する(貸し館)。展示・発表の内容については、自然、歴史関係に限定せず、産業や芸術など県民の幅広い活動の成果発表等に活用できるようにする。</p> <p>(3) 県内に市町村や民間団体が設置している博物館(類似施設)に対し、収集資料の整理・保管や展示方法の改善について助言・指導を行ったり、共同で巡回展示や連携講座を実施したりして、それらの施設との連携・交流を強化する。</p>

主な施設・設備(必要面積)		【現状】	【再配置案】(必要面積との相違への対応等)
収蔵庫	※赤字は現施設にはないもの 自然収蔵庫 ・地学、動物、昆虫、植物 人文収蔵庫 ・歴史、近現代、民俗、考古	2,550 m <sup>2</sup>	374 m <sup>2</sup> 206 m <sup>2</sup> 1,495 m <sup>2</sup>
展示機材保管庫			※1 資料保管庫を除く
燃焼室		30 m <sup>2</sup>	30 m <sup>2</sup>
収集保管計		2,580 m <sup>2</sup>	2,075 m <sup>2</sup>
常設展示室	・鳥取県を知るための融合展示を新たに追加 ・人文・自然系の展覧会の他、美術系の展覧会等にも活用	1,000 m <sup>2</sup>	※2 1,030 m <sup>2</sup>
企画展示室		1,000 m <sup>2</sup>	※3 1,030 m <sup>2</sup>
展示計		2,000 m <sup>2</sup>	2,060 m <sup>2</sup> ※2 美術展示室を除く ※3 第3特別展示室を除く
人文研究室A、執務室、修復室、研究用図書室	・執務室:6m <sup>2</sup> ×25人(共用部分含む)=150m <sup>2</sup> ・研究室、修復室、現在の準備工作室約150m <sup>2</sup> の約1.5倍=210m <sup>2</sup> ・人文・自然の各研究用図書室:2分野とも現図書室約100m <sup>2</sup> の約1.5倍×2分野=300m <sup>2</sup>	660 m <sup>2</sup>	※4 437 m <sup>2</sup> 437 m <sup>2</sup> ※4 史料閲覧室を除く
人文研究室B、作業室			
自然研究室、執務室、研究用図書室			
小計		660 m <sup>2</sup>	437 m <sup>2</sup>
資料写真撮影室	大型絵図を広げられる広さ	100 m <sup>2</sup>	100 m <sup>2</sup>
資料点検室	同上	100 m <sup>2</sup>	100 m <sup>2</sup>
調査研究計		860 m <sup>2</sup>	437 m <sup>2</sup>
情報室(図書・映像)	現史料閲覧室約100m <sup>2</sup> の1.3倍程度	130 m <sup>2</sup>	111 m <sup>2</sup>
多目的スペース	・100人以上収容可能 ・休憩、昼食に利用可能 ・講演、講座、ワークショップの開催が可能	300 m <sup>2</sup>	260 m <sup>2</sup>
体験実習室	現大会議室約100m <sup>2</sup> と準備スペース約50m <sup>2</sup> の計150m <sup>2</sup> ×2コマ同時開催分	300 m <sup>2</sup>	22 m <sup>2</sup>
ボランティア室	ボランティアの休憩・ミーティング用で、現視聴覚室程度	20 m <sup>2</sup>	
教育普及計		750 m <sup>2</sup>	393 m <sup>2</sup>
【管理・共有スペース等】	他施設における標準的な占有率:延床面積×30%	3,510 m <sup>2</sup>	3,066 m <sup>2</sup>
共用空間(エントランス、廊下、トイレ、休憩コーナー等)		180 m <sup>2</sup>	182 m <sup>2</sup>
ショップ等	現状程度は必要	94 m <sup>2</sup>	94 m <sup>2</sup>
館長室、事務室	現応程度と2F会議室程度は必要	160 m <sup>2</sup>	197 m <sup>2</sup>
応接室、会議室	現状程度は必要	20 m <sup>2</sup>	20 m <sup>2</sup>
スタッフルーム	他施設の標準的占有率:延床面積×10%	1,170 m <sup>2</sup>	1,076 m <sup>2</sup>
電気・機械室		400 m <sup>2</sup>	99 m <sup>2</sup>
荷解場	トラックヤードの屋内化		138 m <sup>2</sup>
管理・共有スペース計		5,534 m <sup>2</sup>	4,734 m <sup>2</sup> ※5 1F会議室含む
合計		11,724 m <sup>2</sup>	9,699 m <sup>2</sup>

374 m <sup>2</sup>	現在の第3特別展示室を使用(※一部2層化により収蔵力アップ→500m <sup>2</sup> 相当に)
206 m <sup>2</sup>	現在の講堂を使用(※一部2層化により収蔵力アップ→350m <sup>2</sup> 相当に)
1,495 m <sup>2</sup>	現在の収蔵庫を使用(※一部2層化により収蔵力アップ→1,700m <sup>2</sup> 相当に) 1F 110m <sup>2</sup> - 階段下倉庫 3F 490m <sup>2</sup> - 資料保管庫、美術収蔵庫
515 m <sup>2</sup>	現在の歴史・民俗展示室及び自然展示室を利用
1,030 m <sup>2</sup>	現在の第1特別展示室及び第2特別展示室を使用
2,060 m <sup>2</sup>	
170 m <sup>2</sup>	現在の学芸課執務室等を使用
108 m <sup>2</sup>	現在の図書室を使用
159 m <sup>2</sup>	現在の準備工作室を使用
437 m <sup>2</sup>	437 m <sup>2</sup>
111 m <sup>2</sup>	現在の史料閲覧室を使用(多少拡張可)
260 m <sup>2</sup>	現在の美術展示室(1F)を使用
22 m <sup>2</sup>	多目的スペースに体験実習が行える設備を整え、そこを活用 現在の資料保管庫(2F)を使用
3,066 m <sup>2</sup>	総務課職員減に伴い、コピー機等を総務課内に移動させ、1F会議室のスペースを含め全体をリノベーションする。
180 m <sup>2</sup>	
94 m <sup>2</sup>	
160 m <sup>2</sup>	
20 m <sup>2</sup>	
1,076 m <sup>2</sup>	
99 m <sup>2</sup>	トラックヤードの屋内化は、施設の構造上不可能である。
4,734 m <sup>2</sup>	
9,699 m <sup>2</sup>	